

大宮神社

大宮
3丁目

大宮神社



由緒

後鳥羽天皇の文治元年(1185)に創建された古社で、祭神は応神天皇・神功皇后・姫大神・大国主神・事代主神・鬼門守護大神ほか。本殿、拝殿、遙拝所、絵馬堂などを整えた立派な神社で、古地図によると現在の神域よりはるかに広く、一の鳥居は大宮1丁目(現在高殿4丁目)あたりにあった。

ここは、京街道の「七曲がり」と呼ばれるところで、豊臣秀吉が大坂城築城にあたって京都へと通じる京街道を整備する際、大坂城の防衛線の一部としてこの付近を重視し、敵兵の数や様子を察知し、その進軍を少しでも遅らせるために、わざと街道を蛇行させたといわれている。

源義経が平家追討のため、この地を通りかかったところ霊光があつてここに神祠を建てた。以来、戦国武将の尊崇を集め、とくに豊臣秀吉は大坂城築城の際、この地が鬼門に当たることから同神社を鬼門守護神として神殿や末社を再建し、祈願所とした。明治5年(1872)、村社になり八幡大神宮と改称、さらに同40年(1907)には古市神社となったが、同45年(1912)に大宮神社と改められて現在に至る。

源義経が平家追討のため、この地を通りかかったところ霊光があつてここに神祠を建てた。以来、戦国武将の尊崇を集め、とくに豊臣秀吉は大坂城築城の際、この地が鬼門に当たることから同神社を鬼門守護神として神殿や末社を再建し、祈願所とした。明治5年(1872)、村社になり八幡大神宮と改称、さらに同40年(1907)には古市神社となったが、同45年(1912)に大宮神社と改められて現在に至る。

大宮神社の参道

昔、京街道に面する旧大宮1丁目(現在高殿4丁目)に「一の鳥居」があり、ここより神社の馬場先まで道の両側に松並木があった。長さ十二町は約1,300m、現在の地図で確認できる。

今回、大宮神社のはからいで昔の絵図をお見せいただいた。

絵図には、京街道の七曲がりが描かれ、探し求めた「一の鳥居」、大宮道と松並木、一里塚があった。

大正13年(1924)測の地図
(資料提供:大阪市史編集所)



宝物、豊公当時の境内圖書より「一の鳥居」をみる

境内は樹木がうっそうと茂り、四周に清らかな流れがひかれています。

橋を渡り神域に入る。右手に御手洗、櫻門をくぐると、二の鳥居、拝殿へと進む。

ここに、大宮神社の本社がある。本社の神門東には影向梅、神門西には亀甲石が、そして本社を取り囲むように、若宮、高良社、鬼門守護社、北斗社、三元殿、七社相殿、御輿殿が見える。

絵図の左下に、神井、絵馬掛所、御供所。拝殿の右側に、神楽所、神官詰所など、丁寧に描かれている。



大宮神社に残る境内古圖



枚方市の淀川沿いにある
合同樋門跡のプレート



枚方市の水面回廊にある
合同樋門の記念プレート

正式名称は樋管統一水路

江野川の正式名称は樋管統一水路と言う。

昭和以前の旭区は、純農村地帯だった。田畑の灌漑用水として淀川の堤防に樋門・樋管を設け、農業用水の取り込みをしていた。しかし、これらが老朽化すると堤防の安全に影響を与え、補修費用も多額に上がることから、それらを統一し、一ヶ所から取水して、堤内用水路で田畑に配分する計画が建てられた。

枚方市伊賀加賀地先に新合同樋門を建設し、上庄・出口・二十箇・茨田・佐太・八雲・五箇・榎並の8用水樋をまとめ、さらに流末の予備水路として在来の榎並用水の一支江野樋の地点を起点に、城北運河(現:城北川)へ放流する計画であった。

この事業は昭和4年(1929)より着工され、昭和9年(1934)に通水が完了した。

本流は樋管統一水路、予備水路は分岐点から中宮2丁目と中宮3丁目の境迄を江野川、城北運河までを井路として管理されていた。



昭和42年頃の江野川
(中宮4丁目の城北公園通りから北側を撮影)

昭和～江野川と土地区画整理事業

昭和に入ると大阪市は、大大阪と称される程工業・商業が発達し、それらに関わる人々の居住地帯の整備のため、土地区画整理事業が始まった。

旭区の中宮地区は、榎並之荘土地区画整理事業として昭和7年(1932)より工事が始まり、昭和17年(1942)に完成。今の様な基盤目の町が完成した。

それまで農業用水だった江野川は、雨水・悪水の排出路として利用目的が変更された。ちなみに、江野公園はこの区画整理事業の一つとして昭和12年(1937)にできた。

大阪で万博(昭和45年(1970))が開かれることとなり、交通網の整備のため高速道路が計画された。その予定地として、江野川の上を使用することになった。

しかし、道路予定地に沿って大宮西小学校・大宮中学校・大阪工業大学などの教育施設が並んでいるため、環境問題として反対運動が起きた。話し合いが続けられ、高架橋の高さを嵩上げし、さらにプラスチック板の遮音壁を造ること、及び江野川跡を緑陰道路化することで話し合いがついた。

結局守口線は万博には間に合わず、昭和46年(1971)に供用開始となった。

江野川は昭和49年(1974)に完全に暗渠化され、江野川筋遊歩道(守口市外島町から旭区民センターまでの約3.3km)として整備され、現在に至る。



唯一残る江野川に架かっていた「大和橋」の2つ親柱(大阪工業大学正門の前)



江野川筋遊歩道